分散分析結果

 各期間の皮膚温を図１に示した。



　皮膚温は、前安静から課題にかけて下降し、課題から後安静にかけて上昇した。後安静の皮膚温は、前安静にくらべやや低いように見受けられた。皮膚温を従属変数として、1要因3水準参加者内計画の分散分析を行ったところ、期間の効果が5％水準で有意であった（*F*(2,48)=5.17, *p*<.05）。期間の効果が有意であったため、多重比較を行ったところ、前安静は課題より高く、後安静は課題より高かったが（いずれも*p*<.05）、前安静と後安静の間には有意な差は認められなかった。